

PDCAサイクル手法を用いた 薬剤管理指導業務の改善の取り組み

一戸集平¹⁾²⁾† 鈴木訓史¹⁾ 鈴木克之¹⁾ 内藤義博¹⁾
小関綾子²⁾ 中鉢則子²⁾ 手島伸²⁾³⁾

IRYO Vol. 78 No. 3 (149-155) 2024

要旨

【緒言】国立病院機構では、医療の質を定量的に評価するための“ものさし”である「臨床評価指標」を公表している。一方、国立病院機構仙台医療センターでは、2008年にISO9001の認証を取得しTQM (Total Quality Management) 活動を行い、TQM活動の一環として臨床評価指標から一つの指標を重点目標に選定して業務改善を行っている。2022年度は臨床評価指標「109.安全管理が必要な医薬品（以下、ハイリスク薬）に対する服薬指導の実施率（目標値：実施率50%以上）」に取り組むこととなった。今回、病棟薬剤師のハイリスク薬に対する意識向上のためにPDCAサイクルの手法を用いて活動計画に基づき業務改善を行った。【方法】2022年度に実践したPDCA手法を用いた薬剤管理指導業務の改善活動の検証、2021年度と2022年度の薬剤管理指導に関するデータの比較および病棟薬剤師に対する実態把握のアンケート調査から改善の効果を検討した。【結果】活動計画を基に薬剤管理指導実施件数、ハイリスク薬一覧などの薬剤管理指導に関するデータを可視化し、組織で情報共有をすることなど病棟薬剤師の意識向上の取り組みを行うと共に薬剤管理指導業務を進めて行った。2021年度および2022年度のデータ比較では、全薬剤管理指導実施件数の月平均には変化がみられなかったが、2021年度に比べて2022年度のハイリスク薬の使用患者に対する薬剤管理指導実施件数の月平均は増加した。2回実施したアンケート調査では、今回の取り組みを知っているという回答は、いずれも100%であった。【考察】薬剤管理指導業務の改善活動において、データの可視化と共有することで、目標に対する意識の変化がおこったと考えられた。また、効率的に取り組むを進めるためには、PDCAサイクルは有効な手法の一つであると考えられた。

キーワード：PDCAサイクル、臨床評価指標、ハイリスク薬、薬剤管理指導、可視化

1) 国立病院機構仙台医療センター 薬剤部 2) TQM推進室 3) 外科 † 薬剤師

著者連絡先：一戸集平 国立病院機構仙台医療センター 薬剤部

〒983-8520 宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目11番12号

e-mail : ichinohe.shuhei.za@mail.hosp.go.jp

(2023年12月13日受付 2024年4月19日受理)

Efforts to Improve the Operation of Pharmaceutical Care using on the PDCA Cycle Method

Shuhei Ichinohe¹⁾²⁾, Norifumi Suzuki¹⁾, Katsuyuki Suzuki¹⁾, Yoshihiro Naito¹⁾, Ayako Koseki²⁾, Noriko Chuubachi²⁾ and Shin Teshima²⁾³⁾

1) Department of Pharmacy, NHO Sendai Medical Center, 2) Total Quality Management Promotion Office, NHO Sendai Medical Center, 3) Department of Surgery, NHO Sendai Medical Center

(Received Dec. 13, 2023, Accepted Apr. 19, 2024)

Key Words : PDCA cycle, clinical indicator, high-risk medicine, pharmaceutical care, visualization